

わが子の命を守る「我が子リュック」 配布どうでしょう?!

全国消防長会北海道支部道南地区協議会「消防職員意見発表大会」

最優秀賞 白老町消防本部 消防士 長谷川秀平さん (31) 全道へ



長谷川さんは、消防職員が職務を通じた体験や業務に対する提言・課題を発表する同大会で、胆振・日高管内の出場消防士11人中、見事最優秀賞を受賞。「自分の胸の内にあつたことを文章にしました。最優秀に選ばれるなんて素直にうれいんです」と喜びを語っています。同消防本部では7年ぶりの快挙。4月27日に札幌で開催される第47回全道大会に出場します。発表の要旨を紹介いたします。

■妻の何気ない一言

発表テーマは「我が子リュック」。第1子の男の子が誕生した年に妻がもらした、「今大きな災害が起きたらあなたは職場に行くけど、私たちは2人きり。この子が使う物が、リュックに詰めておいたほうがいいよね」との一言が、防災についてあらためて考えるきっかけになりました。「災害時の非常用持ち出し品は当然ありましたが、わが子用、乳幼児用の備蓄はありませんでした。親としての自覚のなさとともに、消防職員としても恥ずかしかつた気がしました」

■最悪の事態を予想して提案

子どもの誕生で子育ての大変さを実感し始めた長谷川さん。子育て世代は普段の生活の中でもさまざまな不安や悩みを抱えていることなどの調査結果も知り、大規模災害が発生した場合、冷静な判断と行動を期待するのはとても難しい、と思いました。そこで

～乳幼児を対象とした防災対策を考える～

最悪の事態を予想して、わが子の命を守る「我が子リュック」を平時から各家庭で備えておくことを呼び掛けることにしました。

■町子育て支援事業に合わせ

さらには、子どもが生まれた世帯に離乳食調理セットやおもちゃなどを贈呈している町子育て支援パッケージ事業に合わせ配布するのはどうでしょう、と提案しました。防災に対する意識の向上、有事の際の迅速な持ち出し避難を効果として考えました。町の出生数平均と乳幼児用の備蓄を調べると、「食べるだけなら3日間分は確保」と分かり



ました。しかし、避難所では乳幼児が使用する生活用品も必要。提案するリュックの中はミルクと紙おむつをはじめ、使い捨ては乳瓶、お尻拭き、おむつ用消臭袋、バスタオル、避難所で入手困難な物です。親と子の安心感を得られます。その後は配布された世帯が子どもの成長に合わせて中身とリュックを見直す作業の実践を通し、防災意識を養うことに期待しています。

■「あつてよかったあ」

配布実現にはさまざまな過程を経なければなりません。大きな第一歩を踏み出すことで、「このリュックを使う日がこないことを願うのは言うまでもありませんが、リュックの必要性を感じた時に、『このリュックあつてよかったあ』と思うでしょう」と結んでいます。

山菜と自分の命、どちらが大事ですか

山菜採りのシーズンになると、毎年のように転落や行方不明など遭難事故が発生しています。「自分だけは大丈夫」と思わないで、下記のことには注意して安全で楽しい山菜採りにしましょう。

- 家族などに行き先と帰宅時間を知らせましょう。
- 単独での入山を避けて2人以上の複数で入山して声を掛け合い、位置を確認しましょう。
- 服装は目立つ色（蛍光色など）を着用して、寒さをしのげるものを持っていきましょう。
- 携帯電話や非常食、クマよけのため鈴やラジオなどを持っていきましょう。
- 飲食した容器や食べ残しは必ず持ち帰りましょう。

山菜採りに夢中になっていると背丈の高いささやぶに覆われ、迷って方向が分からなくなります。一気に奥までは進まずに、少し進んでは出発地点や集合場所と自分の位置を確認しながらにしましょう。



問い合わせ先：総務課 防災交通室 ☎85-3080